

応用生物科学部

1. 教育研究上の目的

本学部は、動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析能力を高め、人と環境との共生の上に成り立つ生活を真に考究し、実践出来る人材育成を教育理念としている。本理念の達成に向け、生物、化学及び生物化学を基礎学問に据え、講義と実験・実習さらには卒業論文実験を通じて、学力の向上と国際的研究を目指す。

2. 教育目標

応用生物科学部は、その人材養成目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 動植物・微生物等が営む生命現象について理解と解析する能力を有する者
- (2) 人と環境との共生を真の生活に活かし、社会に貢献する能力を有する者
- (3) 修得した知識や成果を的確に表現できるプレゼンテーションとコミュニケーション能力を有する者

3. ディプロマ・ポリシー

応用生物科学部は、未来に向けて拡大し続ける農学領域において、生物生産・生物資源利用から食料・健康・環境・エネルギーまでを理解する力と、その解析を行うための能力を高めることによって、人と環境が調和する私たちの生活のあり方や未来について、その改善策を提案し、実践できる人材を輩出するため、以下の要件を満たし、かつ、所定の単位を修得した学生に対し、学位を授与します。

- (1) 生物学と化学を中心とした自然科学の基礎的・基盤的知識の修得と同時に、各学科の目指す専門的・先進的な知識や技術を身につけている。
- (2) 卒業論文研究の遂行および論文の作成を通して、課題探求力、情報収集力、論理的思考力、問題解決力、文章力、企画提案力およびプレゼンテーション力などの能力を身につけている。
- (3) 研究室における諸活動および国内外での体験的・実践的諸活動などに基づき、他者との協調性、自らの積極性と適切な表現力、コミュニケーション力、高い倫理性などを有し、国内外で活躍しうる能力を身につけている。
- (4) 「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などに関わる専門性を活かし、学修の成果を実社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

応用生物科学部のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- (1) 生物生産・生物資源利用から食料・健康・環境・エネルギーまでを理解する上で必要な基礎的・基盤的知識の修得と、応用生物科学にかかわる専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の3つの科目区分により授業科目を配当し、各区分内において基礎から応用への段階的な科目配当を行う。
- (2) 「総合教育科目」には、全学共通科目として「導入科目」、「課題別科目」および「就職準備科目」を、学部共通科目としては、「基礎生物」「基礎化学」を配当した「リメディアル教育科目」などの区分を設け、大学での学修方法等を修得する科目や、専門教育の動機付けとなる授業科目、学修内容を将来の進路に繋げるための科目を配当する。
- (3) 「外国語科目」には、国際的視野を形成することで専門領域を理解し、国内外で活躍するため、実践的な語学科目を配当する。
- (4) 「専門教育科目」には、学部共通科目として「生命科学」「環境科学」を配当した「専門共通科目」、「食育コース」を配当した「創生型科目」、「食品工学概論」「生物工学概論」「バイオプロセス工学概論」「科学メディア論」などを配当した「学際領域科目」などの区分を設けている。さらに、各学科には、「化学」や「生物学」などの「学科基礎科目」、「有機化学」「生化学または生物化学」「微生物学」などの「専門基礎科目」、各学科独自の「専門コア科目」の区分を設け、応用生物科学分野の基礎となる科目をはじめ、科学の進歩に対応する先端の科目や社会の要請に応えうる実践的科目を配当し、実学主義に基づく問題解決学習を含めた多くの実験・実習・演習科目も配当する。
- (5) 「専門教育科目」の中の「総合化科目」として、4年間の集大成となる「卒業論文」を必修科目として配当する。

5. アドミッション・ポリシー

応用生物科学部は、「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などをテーマに、“生きる”を多角的に支える応用生物科学の力を駆使して、人と環境が調和する私たちの生活のあり方や未来に貢献する意欲を持ち、国際的な視野のもと、実社会で指導的立場に立って活躍することを目指す、次のような学生を求めています。

- (1) 高等学校において、化学、生物学および外国語を履修し、本学部で学ぶ上での必要な基礎学力、知識および語学力を有している。
- (2) 「生命」、「食料」、「健康」、「環境」、「エネルギー」などに関心を持ち、関連専門分野の実社会で活躍し、情報発信する意欲を有している。
- (3) 実験・実習・研究等を通じた学びに強い関心があり、主体性を持って多様な人々と協同して学ぶ姿勢を有している。
- (4) 様々な事象や未解決の課題に対し、多面的かつ客観的に観察し、理論的に考察して自分の

考えを適切に他者に伝えることができる。